

序

免疫学は、さまざまな分野の新しい技術、考え方を取り入れながら、この30年で急速に発展してきたため、学生に教えるべき内容が毎年増加し、5年未満という単位で教科書も改訂を繰り返しています。免疫学のように内容が年々変化する基礎教育科目は、ほかには見当たりません。一方で、医学部や薬学部、医療系学部では臨床実習や臨地実習に割く時間が増加したこともあり、免疫学をはじめとした基礎科目の講義時間はほとんど増えていないか、むしろ減少傾向にあります。そのため、限られた講義時間内で、年々増え続ける新しい知見と長年にわたり蓄積されてきた知識をいかにしてバランスよく学生に教えるかということについて、免疫学講義を担当されている多くの先生が、悩みながらさまざまな工夫を凝らして講義を行っておられます。しかし、残念ながら免疫学は複雑で難しいと、苦手意識をもつ学生がたいへん多くいるというのが現状だと思います。また、長年、免疫学講義は医学部が中心となって実施されていましたが、現在では、薬学部や医療系学部においても免疫学講義が多く開講されています。そのため、より入門的要素の強い教科書が必要になっているとも聞いております。確かに、既存の教科書はたいへんすばらしいものが多いのですが、初心者が免疫学の全体像を体系的に学ぶための入門書としては少し難しいものが多いように感じます。そこで今回、僭越ながら、はじめて免疫学を学ぶ医学部、薬学部や医療系学部の学生が容易に通読でき、基礎固めにもなり、免疫学の本質とおもしろさが伝わるようなわかりやすい教科書の作成に挑戦しました。医学部、薬学部、医療系学部をはじめとした多くの学生にとって、本書が免疫学への興味の入り口となることを期待しています。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大がきっかけの一つとなり、いまや免疫やワクチンという言葉を目にしない日はありません。また、最近では、アレルギーや自己免疫疾患、感染症、がんだけでなく、認知症や循環器疾患などの加齢性疾患の発症、そして、個体の老化と免疫系が密接に関係していることが報告されています。さらに、免疫と予防医学や未病医学、栄養学、環境科学の関係も注目されています。ぜひ、医学部、薬学部や医療系学部の学生だけでなく、農学部や獣医学部、栄養学部の学生、農畜産業や食品産業、健康関連産業などの幅広い分野の方々にも本書を手にとりいただき、免疫学に対する理解を深め、さらに興味をもつきっかけとしていただければ幸いです。

2023年10月

山下政克